

アーカス湘南ロータリークラブ
2025年9月
卓話『雑誌月間に寄せて』
『購読の義務』から『読む、知る権利』へ

久保田英男(鎌倉 RC)

昨年・一昨年に続き、アーカス湘南 RC での『雑誌月間』卓話の機会を今年も頂くこととなりました。一昨年は、「ロータリーの友」に連載の「Food for Thought」の没ネタを中心に執筆裏話的なお話をさせて頂き、昨年は「楽しい食卓」というタイトルで、食事を楽しむために「マナーとエチケット」について語らせて頂きました。

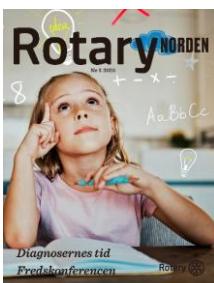
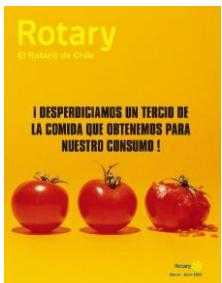
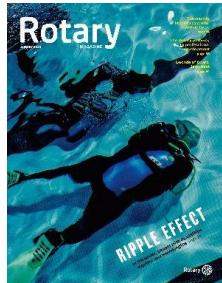
さて今年は何をお話ししようかと悩んでしまいました。

以前にも触れてはいますが、そもそもロータリークラブの「雑誌月間」、「ロータリーの友」とはいう正攻法な側面からお話を進めてみましょう。

「ロータリーの友」とは国際ロータリー (Rotary International 略称"RI")の機関雑誌です。

ロータリークラブの会員であるロータリアンには RI が認可したロータリーの雑誌の購読義務があります。もともと、RI が発行する ROTARY 誌だけが公式機関雑誌だったのですが、世界中にロータリークラブが広がるとともに各国の文化風習や各言語で編集発行されたものを RI が認可するようになりました。現在、RI に認可された雑誌が世界には 30 種類以上あります。日本のロータリアンは、アメリカ本部で発行している ROTARY 誌もしくは、「ロータリーの友」を購読することになっています。

『ロータリーの友』は国際ロータリーの機関雑誌です



ロータリーの雑誌は、
世界で30種類以上あります

『ロータリーの友』紹介 | 3

上段（左から）RI 本部発行 オーストラリア

下段（左から）チリ ノルウェー（北欧） 台湾

もちろん、勝手に発行できるわけではなく幾つかの決まりがあって認定を受けなければなりません。

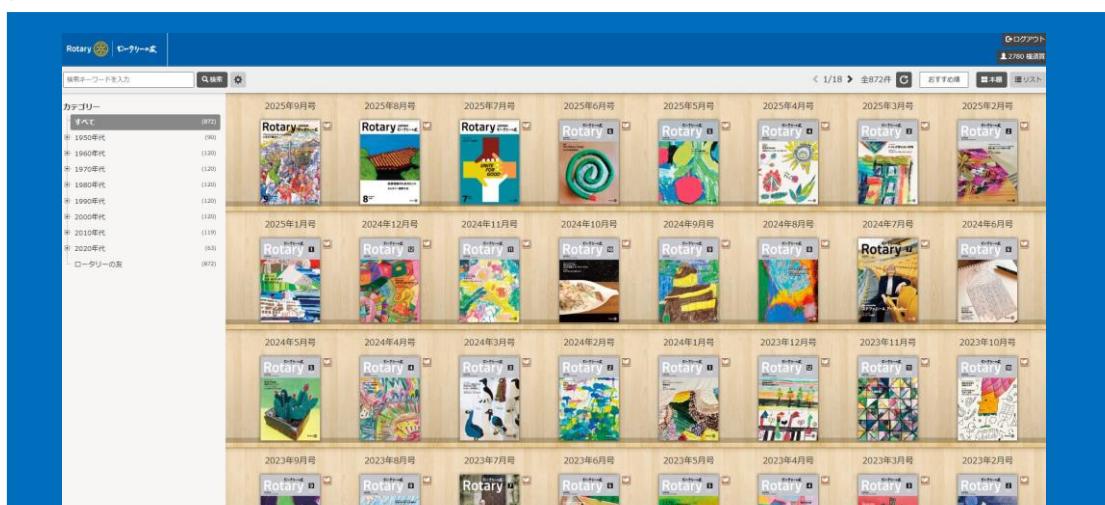
- ・表紙に Rotary の公式ロゴを入れること
- ・R I 会長メッセージや、財団管理委員長メッセージなどのほか、国際大会参加推進の記事、会長エレクトの Q&A など、RI から指定された記事を掲載すること
- ・R I の方針、方向性への理解が深めるような記事を掲載
- ・年に 6 回以上発行すること。(各号少なくとも 24 ページ以上にすること)
- ・雑誌の 50%は、ロータリーに関係した記事であること
- ・読者が印刷媒体か電子媒体を選択できること
- ・RI の資金援助を受けずに経済的に独立すること

などがあります。

ロータリーの機関雑誌として、毎月国際ロータリー本部が指定する記事を掲載することになっています。掲載を指定する記事には、会長メッセージ、財団管理委員長メッセージ、国際大会の参加推進記事があります。ちなみに指定記事には、地球儀に R I と書かれたロゴを表示しています。そのほかの条件として、現在、7 月号には R I から配信される新会長の写真を使うことが機関雑誌として決められています。ところが、今年 2025 年 7 月号に関しては、RI 会長エレクトが直前で辞任されたため 7 月号の表紙に新しい会長の写真を使うことができませんでした。なかなかない年に遭遇したのも話題として残りそうですね。

またロータリーの特別月間に極力合わせた記事を特集として掲載しているほか、ロータリーの最優先課題であるポリオ根絶活動や RI 理事会の抄録についても、随時掲載しています。指定記事・国際ロータリー情報以外にも国内のロータリークラブの情報など地域性をもった記事が毎月掲載されています。

デジタル化の進む社会で、「ロータリーの友」を購読している人は、印刷媒体か電子媒体を選択することができます。もちろん追加料金なく従来通り印刷版と電子版を利用することができます。最新号は毎月 1 日に更新され、利用するには、クラブごとに発行される ID、パスワードでログインすれば閲覧可能です。このサイト内では、1953 年 1 月の創刊号を含むバックナンバーがすべてご覧いただけます。検索機能も充実しているので、ぜひご活用ください。



『ロータリーの友』電子版

Rotary ロゴ
Rotary Club of Yokohama
16 Sep 2025

日本版ロータリー誌「ロータリーの友」には大きな特徴があります。横組み、縦組みで構成されており、それぞれに表紙があるということ。つまり、表紙が2つあるということです。「ロータリーの友」創刊時は、全て横書き（横組み）でした。しかし、俳句を掲載するようになり、部分的に縦書き（縦組み）で掲載するようになりました。その後、横書き、縦書きが混在していましたが、縦書きで掲載する記事も増えてきたため1972年1月号から横書きと縦書きを分けた形式になりました。この時から、表紙は2つになったわけです。

横組みでは、R I 関係の記事、特集、ロータリーに関する理解を深める記事を中心に取り上げています。今年度から、ロータリークラブ・地区の活動を紹介するロータリーアットワークを横組みの掲載へ変更になっています。縦組みは、読者のエッセー、俳句など趣味のコーナー、知識が広がる講演や卓話の要旨、など会員同士の親睦を深められるような記事を掲載しています。ちなみに拙文「にっぽんふうど」は縦組みページに掲載されています。

さて、「ロータリアンにはR I が認可したロータリーの雑誌の購読義務」という話しが冒頭にありました、ロータリアンには会員として3つの義務があるとされています。それは「例会出席」「会費の納入」「雑誌の購読」。組織の運営上、「例会出席」「会費の納入」は義務とするのは何となく「当たり前」と思えるのですが、「雑誌の購読」を義務とすることには少し異質な感覚を持ってしまいます。

「雑誌の購読」がいつから義務となったのか、また、義務とする意義などについては調べてもなかなかよくわからないのですが、「1977年の規定審議会において、標準ロータリークラブ定款第10条(現14条)の改定に伴い、公式地域雑誌（現ロータリー地域雑誌）の規定が設けられました。これにより、ロータリアンは、国際ロータリーの機関誌『The Rotarian(現Rotary)』だけでなく、R I が指定した公式地域雑誌を購読することで会員としての義務を果たすことができるようになりました」と「ロータリーの友」のHPに記載があることから、1977年以前は『The Rotarian』のみが公式雑誌でその時点で『The Rotarian』の購読が義務だったようです。そういえば、子供の頃、毎月国際郵便で『The Rotarian』が我が家(父も1961年からロータリアンでした)に届いていたのを覚えています。「雑誌の購読」が義務であったのはおそらく1977年以前からだったのでしょうか、その意味については、「おそらく・・・」という程度にもお伝えすることができませんが、実際は義務だから買う、という「購読」ではなく「購買」の義務のようになっているように思われます。恥ずかしながら僕も入会当時は、毎月家に持ち帰り読むこともなく机に積まれて最後は資源ゴミとして出されてしまいました。この様なロータリアンは多いのではないかでしょうか。(僕だけだったらどうしよう、と思いつつ続けます)

おそらく、「出席」や「支払い」は記録に残りますが、「読んだ」ということは第三者に分かりにくい点と、そもそも「ロータリーの友」を読もうとする魅力に欠けているという決定的な欠点があるからではないかと思っています。僕自身の話しになりますが、ゴルフをしますが、スポーツや趣味として見た時に素直に言えば、好きではないし、全く興味はありません。では何故ゴルフをするかと言えば、友達に誘われ、プレイ中やその前後、また、一緒にゴルフをしたという共通項が食事をしたりお酒を酌み交わすのとは違った楽しさがあるからで、ゴルフそのものを楽しんではい、交友の手段でしかないからでしょう。なので、ゴルフ番組やゴルフ雑誌に興味は全くなく、もし雑誌を渡されてもどこをどう読んでいいのか分からないので、結局ゴミ箱行きになってしまいます。それと同じにロータリアンになったもののロータリークラブをどのように捉えているかによって、ロータリーの雑誌を読むか読まないか、に分かれてしまうのではないかと思っています。

ロータリー活動を自ら楽しもうとしている人は、「今の国際ロータリーは何に重点をおいているのか」「他の国ではどのような活動しているか」「何か新しい情報は」などとおそらく一通り目を通して知識を積極的に得ているのだと思います。一方、読まない人はロータリー活動そのものより、誰と何をするか、という点に重きを置いているので、身近な地域活動の足場や交友関係の延長線。だから、あまり「ロータリーとは」「国際ロータリーの会長のメッセージ」などピンと来ないので見出しや写真を見る程度でそこから読もうとしないのではないかと思う。僕のゴルフ雑誌に触手が動かないのと同じように思います。

僕からすれば、高い会費を払って、様々な職業人と交流できて、しかも、その組織は世界200か国、33万人の会員を有する巨大なネットワークに自分は属しているのです。それなのに地元のサロン風のクラブとしてだけ利用するのはもったいないような気がします。まあ、そもそも当初読んでもいなかつたものが言うのは説得力に欠けるかもしれません、そのような意識を持つためにも読んだ方がいいと思い、様々な機会の中で薦めてはいるのですが。

まず、個人的な解釈ですが、義務と称していますが、「雑誌の購読」の義務は、「知る権利」といったニュアンスに捉えて欲しいのです。ロータリー財団へ寄付をしていれば、その寄付がどのように使われているか、そこには分かりやすく紹介されています。そして、世界各地で、また日本のロータリアンや奨学生・ローターアクトが活躍している姿を見ることができます。そんな素晴らしい素敵な行動をしているのは全て私たちの仲間なのです。アジアの片隅の小さな町にいながら世界を変えることに役立っていることを「知る」機会がそこに載っています。その権利を逃しているのは勿体ないことだと思いますよ。

RIから公式雑誌の認定を受ける条件の中に「雑誌の50%は、ロータリーに関係した記事であること」という項目がありましたよね。これは機関誌でありながら記事の半分はロータリーと関係ないことを掲載してもいい、と取れます。実際「ロータリーの友」には、「私の一冊(会員お薦めの本の紹介)」、「うちの子(自慢のペット)」、「ロータリー俳壇・歌壇・柳壇」、「パズル de ロータリー」や「詰将棋」などのロータリー活動とは少し外れたコーナーも用意されています。拙文「にっぽんふうど」もそんなページになります。興味のあるページから手にとってみるのもいいと思います。

TABLE SPEECH

卓話の泉

花のある暮らし

ロータリーの友

俳壇

私の一冊 ほんぽん彩句

歌壇

柳壇

『ロータリーの友』
2025年9月号
左: 縦組P18 (P47) / 右: 縦組P12~13 (P52~53)

Rotary Club of Yokohama
16 Sep 2025

少し自慢ぽい話になりますが、僕が「ロータリーの友」に連載を始めたことで、所属クラブの仲間や知り合いが「読んでいるよ」と声をかけてくれています。自クラブでは、家族の顔が見える人も多く、「久保田さんの面白いエッセイが毎月載っているよ」と自宅に持ち帰る「ロータリーの友」を薦めてくれる人もいて、「妻が面白いって毎月読んでますよ」と(お世辞でしょうが)話してくれることがあります。その中で、最近驚いたことがあります。ある友人が「ロータリーの友」が話題になった時、「うちの(奥様)が久保田さんの記事毎月読んでいるうちに他のページも読むようになったらしく、「ロータリーって良いこと沢山しているのね、パパのクラブはどんなことしているの」って言うんだよ」と。もしかすると、その奥様は僕より「ロータリーの友」を読み、ロータリーのことも深くご存知かもしれません。先ほど、「魅力に欠ける」なんて書きましたが、「ロータリークラブ」も「ロータリーの友」は、もう一步踏み込めば、大人の好奇心を擽る世界が広がり、必ず引き込まれるはずです。きっかけは何であれ、その本の情報を素直に読み、感動し、活動を理解し協力しようと気持ちにさせるのが文の力なのです。だから、「義務だ」「ロータリーのために」と堅苦しいこと言わずに、純粋に雑誌(様々なテーマを多くの作家や記者が書くから雑誌なのです)なので、最初は興味のあるところだけつまみ読みすれば良いのではないでしょうか。ロータリーで進級試験のようなものがあるわけではありませんから、一生懸命読んで勉強する必要などはなく、気楽に好きな記事を読めばいいと思うし、その時興味を惹かれたページに目を落とせばいいのだと思います。そして、何よりロータリーの奉仕活動を楽しみ、ロータリアンであることに誇りを持つことが大事なのだと思います。よりよい奉仕活動をするには、もっと楽しむには、と欲が出れば出るほど、「ロータリーの友」の読み応えは増すでしょう。

「ロータリーの友」の中の「ロータリークラブ」の魅力を引き出し、そこから得たインスピレーションで始めた活動が、世界を変えるかもしれません。そんなチャンスを「ロータリーの友」という雑誌は毎月発信しています。「義務」ではなく「権利」「機会」「チャンス」として楽しく読んで下さい。

堅い話に終始したので、最後にクイズです。「『フレンチトースト』は、その発祥はフランスではありません。さて『フレンチトースト』どこで生まれ、何故その名になったのでしょうか。」答えは「ロータリーの友」2025年7月号に。

ありがとうございました。(了)

